

授業計画(シラバス)

科目名	進路研究 I		指導担当者名	就職担当職員
実務経験	無			
開講時期	通年	対象学科学年	全学科 1年生	
授業方法	講義: ○	演習:	実習:	実技:
年間時間数	28 時間		週時間数	1 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・就職活動をする心構えの習得と実準備ができる事を目標とする。 ・前期では、一般常識について学び、習得する事を目標達成ポイントとする。 ・後期では、履歴書作成を目標達成ポイントとする。 			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	SUCCESS			
授業外学習の方法	教科書復習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	講師紹介 1-1 これからどう生きるのか(宿題として視聴)	
	2	就職活動の心構え身だしなみ	1-1宿題振り返り 1-2 一生でどのくらい稼げるのか	
	3	就職活動での身だしなみ	5-1~5-1(実践編) 身だしなみ	
	4	就職活動の流れ	学校でのルールと大学生、高校生、専門学校生の違い	
	5	職業を知る	2-2 職種と業種の違いが分かるように *志望動機は飛ばします	
	6	情報収集、企業研究、資料請求 1	2-2(実践編) 業界マップの理解	
	7	情報収集、企業研究、資料請求 2	2-3 業界ごとに必要な仕事内容を理解する	
	8	情報収集、企業研究、資料請求 3	2-3(実践編) 業界ごとに必要な仕事内容を理解する	
	9	自分自身を知る 自分史の作成 1	3-4から3-6-2 ・3-4自己PRのネタを探す	
	10	自分自身を知る 自分史の作成 2	3-4から3-6-2 ・3-4-1 自己PRのネタを探す(経験)	
	11	自分自身を知る 自分史の作成 3	3-4から3-6-2 ・3-4-2 自己PRのネタを探す(特性)	
	12	自分自身を知る 自分史の作成 4	3-4から3-6-2 ・3-5自己PRの骨格を作る	
	13	自分自身を知る 自分史の作成 5	3-4から3-6-2 ・3-5自己PRの骨格を作る(実践編)	
	14	期末試験(一般常識)	自己PRの確認は必須 時間があれば一般常識など	
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 				

授業計画(シラバス)

科目名	進路研究 I		指導担当者名	就職担当職員
実務経験	無			
開講時期	通年	対象学科学年	全学科 1年生	
授業方法	講義: ○	演習:	実習:	実技:
年間時間数	28 時間		週時間数	1 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・就職活動をする心構えの習得と実準備ができる事を目標とする。 ・前期では、一般常識について学び、習得する事を目標達成ポイントとする。 ・後期では、履歴書作成を目標達成ポイントとする。 			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	SUCCESS			
授業外学習の方法	教科書復習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	15	志望動機の作り方 1	3-7 業界、会社にあった動機作り	
	16	志望動機の作り方 2	3-7(実践編) 業界、会社にあった動機作り	
	17	制作書類 1	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2エントリーシート	
	18	制作書類 2	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2封筒の書き方、添え状	
	19	制作書類 3	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2その他の書類、履歴書	
	20	制作書類 4	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2履歴書の完成	
	21	企業訪問	5-1,5-2	
	22	就職試験のマナー 1	5-2~5-3(実践編) 入退室	
	23	就職試験のマナー 2	5-2~5-3(実践編) 面接試験対策1	
	24	就職試験のマナー 3	5-2~5-3(実践編) 面接試験対策2	
	25	筆記試験対策 1	5-5,5-5(実践編) 筆記試験について、種類や方法を知る	
	26	筆記試験対策 2	特に小論文の書き方(内容は自己PRや志望動機をまとめる内容がよい)	
	27	筆記試験対策 3	特に小論文の書き方(内容は自己PRや志望動機をまとめる内容がよい)	
	28	期末試験(履歴書)	履歴書提出	
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 				

授業計画(シラバス)

科目名	進路研究Ⅱ		指導担当者名	就職担当職員
実務経験	無			
開講時期	通年	対象学科学年	全学科 1年生	
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：
年間時間数	28 時間		週時間数	1 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・就職活動をする心構えの習得と実準備ができる事を目標とする。 ・前期では、一般常識について学び、習得する事を目標達成ポイントとする。 ・後期では、履歴書作成を目標達成ポイントとする。 			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	SUCCESS			
授業外学習の方法	教科書復習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	オリエンテーション	講師紹介 1-1 これからどう生きるのか(宿題として視聴)	
	2	就職活動の心構え身だしなみ	1-1宿題振り返り 1-2 一生でどのくらい稼げるのか	
	3	就職活動での身だしなみ	5-1~5-1(実践編) 身だしなみ	
	4	就職活動の流れ	学校でのルールと大学生、高校生、専門学校生の違い	
	5	職業を知る	2-2 職種と業種の違いが分かるように *志望動機は飛ばします	
	6	情報収集、企業研究、資料請求 1	2-2(実践編) 業界マップの理解	
	7	情報収集、企業研究、資料請求 2	2-3 業界ごとに必要な仕事内容を理解する	
	8	情報収集、企業研究、資料請求 3	2-3(実践編) 業界ごとに必要な仕事内容を理解する	
	9	自分自身を知る 自分史の作成 1	3-4から3-6-2 ・3-4自己PRのネタを探す	
	10	自分自身を知る 自分史の作成 2	3-4から3-6-2 ・3-4-1自己PRのネタを探す(経験)	
	11	自分自身を知る 自分史の作成 3	3-4から3-6-2 ・3-4-2自己PRのネタを探す(特性)	
	12	自分自身を知る 自分史の作成 4	3-4から3-6-2 ・3-5自己PRの骨格を作る	
	13	自分自身を知る 自分史の作成 5	3-4から3-6-2 ・3-5自己PRの骨格を作る(実践編)	
	14	期末試験(一般常識)	自己PRの確認は必須 時間があれば一般常識など	
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 				

授業計画(シラバス)

科目名	進路研究Ⅱ		指導担当者名	就職担当職員
実務経験	無			
開講時期	通年	対象学科学年	全学科 1年生	
授業方法	講義: ○	演習:	実習:	実技:
年間時間数	28 時間		週時間数	1 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・就職活動をする心構えの習得と実準備ができる事を目標とする。 ・前期では、一般常識について学び、習得する事を目標達成ポイントとする。 ・後期では、履歴書作成を目標達成ポイントとする。 			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	SUCCESS			
授業外学習の方法	教科書復習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	15	志望動機の作り方 1	3-7 業界、会社にあった動機作り	
	16	志望動機の作り方 2	3-7(実践編) 業界、会社にあった動機作り	
	17	制作書類 1	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2エントリーシート	
	18	制作書類 2	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2封筒の書き方、添え状	
	19	制作書類 3	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2その他の書類、履歴書	
	20	制作書類 4	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2履歴書の完成	
	21	企業訪問	5-1,5-2	
	22	就職試験のマナー 1	5-2~5-3(実践編) 入退室	
	23	就職試験のマナー 2	5-2~5-3(実践編) 面接試験対策1	
	24	就職試験のマナー 3	5-2~5-3(実践編) 面接試験対策2	
	25	筆記試験対策 1	5-5,5-5(実践編) 筆記試験について、種類や方法を知る	
	26	筆記試験対策 2	特に小論文の書き方(内容は自己PRや志望動機をまとめる内容がよい)	
	27	筆記試験対策 3	特に小論文の書き方(内容は自己PRや志望動機をまとめる内容がよい)	
28	期末試験(履歴書)	履歴書提出		
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 				

授業計画(シラバス)

科目名	進路研究Ⅲ		指導担当者名	就職担当職員
実務経験	無			
開講時期	通年	対象学科学年	全学科 1年生	
授業方法	講義: ○	演習:	実習:	実技:
年間時間数	28 時間		週時間数	1 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・就職活動をする心構えの習得と実準備ができる事を目標とする。 ・前期では、一般常識について学び、習得する事を目標達成ポイントとする。 ・後期では、履歴書作成を目標達成ポイントとする。 			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	SUCCESS			
授業外学習の方法	教科書復習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	オリエンテーション	講師紹介 1-1 これからどう生きるのか(宿題として視聴)	
	2	就職活動の心構え身だしなみ	1-1宿題振り返り 1-2 一生でどのくらい稼げるのか	
	3	就職活動での身だしなみ	5-1~5-1(実践編) 身だしなみ	
	4	就職活動の流れ	学校でのルールと大学生、高校生、専門学校生の違い	
	5	職業を知る	2-2 職種と業種の違いが分かるように *志望動機は飛ばします	
	6	情報収集、企業研究、資料請求 1	2-2(実践編) 業界マップの理解	
	7	情報収集、企業研究、資料請求 2	2-3 業界ごとに必要な仕事内容を理解する	
	8	情報収集、企業研究、資料請求 3	2-3(実践編) 業界ごとに必要な仕事内容を理解する	
	9	自分自身を知る 自分史の作成 1	3-4から3-6-2 ・3-4自己PRのネタを探す	
	10	自分自身を知る 自分史の作成 2	3-4から3-6-2 ・3-4-1自己PRのネタを探す(経験)	
	11	自分自身を知る 自分史の作成 3	3-4から3-6-2 ・3-4-2自己PRのネタを探す(特性)	
	12	自分自身を知る 自分史の作成 4	3-4から3-6-2 ・3-5自己PRの骨格を作る	
	13	自分自身を知る 自分史の作成 5	3-4から3-6-2 ・3-5自己PRの骨格を作る(実践編)	
	14	期末試験(一般常識)	自己PRの確認は必須 時間があれば一般常識など	
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 				

授業計画(シラバス)

科目名	進路研究Ⅲ		指導担当者名	就職担当職員
実務経験	無			
開講時期	通年	対象学科学年	全学科 1年生	
授業方法	講義: ○	演習:	実習:	実技:
年間時間数	28 時間		週時間数	1 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・就職活動をする心構えの習得と実準備ができる事を目標とする。 ・前期では、一般常識について学び、習得する事を目標達成ポイントとする。 ・後期では、履歴書作成を目標達成ポイントとする。 			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	SUCCESS			
授業外学習の方法	教科書復習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	15	志望動機の作り方 1	3-7 業界、会社にあった動機作り	
	16	志望動機の作り方 2	3-7(実践編) 業界、会社にあった動機作り	
	17	制作書類 1	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2エントリーシート	
	18	制作書類 2	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2封筒の書き方、添え状	
	19	制作書類 3	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2その他の書類、履歴書	
	20	制作書類 4	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2履歴書の完成	
	21	企業訪問	5-1,5-2	
	22	就職試験のマナー 1	5-2~5-3(実践編) 入退室	
	23	就職試験のマナー 2	5-2~5-3(実践編) 面接試験対策1	
	24	就職試験のマナー 3	5-2~5-3(実践編) 面接試験対策2	
	25	筆記試験対策 1	5-5,5-5(実践編) 筆記試験について、種類や方法を知る	
	26	筆記試験対策 2	特に小論文の書き方(内容は自己PRや志望動機をまとめる内容がよい)	
	27	筆記試験対策 3	特に小論文の書き方(内容は自己PRや志望動機をまとめる内容がよい)	
	28	期末試験(履歴書)	履歴書提出	
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 				

授業計画(シラバス)

科目名	進路研究IV		指導担当者名	就職担当職員
実務経験	無			
開講時期	通年	対象学科学年	全学科 1年生	
授業方法	講義: ○	演習:	実習:	実技:
年間時間数	28 時間		週時間数	1 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・就職活動をする心構えの習得と実準備ができる事を目標とする。 ・前期では、一般常識について学び、習得する事を目標達成ポイントとする。 ・後期では、履歴書作成を目標達成ポイントとする。 			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	SUCCESS			
授業外学習の方法	教科書復習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	オリエンテーション	講師紹介 1-1 これからどう生きるのか(宿題として視聴)	
	2	就職活動の心構え身だしなみ	1-1宿題振り返り 1-2 一生でどのくらい稼げるのか	
	3	就職活動での身だしなみ	5-1~5-1(実践編) 身だしなみ	
	4	就職活動の流れ	学校でのルールと大学生、高校生、専門学校生の違い	
	5	職業を知る	2-2 職種と業種の違いが分かるように *志望動機は飛ばします	
	6	情報収集、企業研究、資料請求 1	2-2(実践編) 業界マップの理解	
	7	情報収集、企業研究、資料請求 2	2-3 業界ごとに必要な仕事内容を理解する	
	8	情報収集、企業研究、資料請求 3	2-3(実践編) 業界ごとに必要な仕事内容を理解する	
	9	自分自身を知る 自分史の作成 1	3-4から3-6-2 ・3-4自己PRのネタを探す	
	10	自分自身を知る 自分史の作成 2	3-4から3-6-2 ・3-4-1 自己PRのネタを探す(経験)	
	11	自分自身を知る 自分史の作成 3	3-4から3-6-2 ・3-4-2 自己PRのネタを探す(特性)	
	12	自分自身を知る 自分史の作成 4	3-4から3-6-2 ・3-5自己PRの骨格を作る	
	13	自分自身を知る 自分史の作成 5	3-4から3-6-2 ・3-5自己PRの骨格を作る(実践編)	
	14	期末試験(一般常識)	自己PRの確認は必須 時間があれば一般常識など	
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 				

授業計画(シラバス)

科目名	進路研究IV		指導担当者名	就職担当職員
実務経験	無			
開講時期	通年	対象学科学年	全学科 1年生	
授業方法	講義: ○	演習:	実習:	実技:
年間時間数	28 時間		週時間数	1 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・就職活動をする心構えの習得と実準備ができる事を目標とする。 ・前期では、一般常識について学び、習得する事を目標達成ポイントとする。 ・後期では、履歴書作成を目標達成ポイントとする。 			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	SUCCESS			
授業外学習の方法	教科書復習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	15	志望動機の作り方 1	3-7 業界、会社にあった動機作り	
	16	志望動機の作り方 2	3-7(実践編) 業界、会社にあった動機作り	
	17	制作書類 1	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2エントリーシート	
	18	制作書類 2	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2封筒の書き方、添え状	
	19	制作書類 3	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2その他の書類、履歴書	
	20	制作書類 4	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2履歴書の完成	
	21	企業訪問	5-1,5-2	
	22	就職試験のマナー 1	5-2~5-3(実践編) 入退室	
	23	就職試験のマナー 2	5-2~5-3(実践編) 面接試験対策1	
	24	就職試験のマナー 3	5-2~5-3(実践編) 面接試験対策2	
	25	筆記試験対策 1	5-5,5-5(実践編) 筆記試験について、種類や方法を知る	
	26	筆記試験対策 2	特に小論文の書き方(内容は自己PRや志望動機をまとめる内容がよい)	
	27	筆記試験対策 3	特に小論文の書き方(内容は自己PRや志望動機をまとめる内容がよい)	
	28	期末試験(履歴書)	履歴書提出	
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 				

授業計画(シラバス)

科目名	クロスオーバーゼミクロスオーバーゼミ I	指導担当者名	常勤
実務経験	無		
開講時期	通年	対象学科学年	全学科 1年生
授業方法	講義:	演習: ○	実習: 実技:
年間時間数	56 時間	週時間数	2 時間
学習到達目標	<p>・学校の特徴でもある複数分野の授業を横断的に学習し、視野を広げ見地を高める。</p> <p>・授業内における複数のカリキュラムメニューから自身の興味関心のあるものを選び学習をすることで無理なく学びにつなげることができ、自身の可能性と得意分野を広げていく。</p>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	ゼミごとに異なる		
授業外学習の方法	ゼミごとに異なる		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。
	2	選択基礎1	選択授業の基礎を学ぶ。
	3	選択基礎2	選択授業の基礎を学ぶ。
	4	選択基礎3	選択授業の基礎を学ぶ。
	5	選択基礎4	選択授業の基礎を学ぶ。
	6	選択基礎5	選択授業の基礎を学ぶ。
	7	選択基礎6	選択授業の基礎を学ぶ。
	8	選択基礎7	選択授業の基礎を学ぶ。
	9	選択基礎8	選択授業の基礎を学ぶ。
	10	選択基礎9	選択授業の基礎を学ぶ。
	11	選択基礎10	選択授業の基礎を学ぶ。
	12	選択基礎11	選択授業の基礎を学ぶ。
	13	選択基礎12	期末試験範囲発表、期末試験範囲振り返り
	14	期末試験	期末試験
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	クロスオーバーゼミクロスオーバーゼミ I		指導担当者名	常勤
実務経験	無			
開講時期	通年	対象学科学年	全学科 1年生	
授業方法	講義:	演習: ○	実習:	実技:
年間時間数	56 時間		週時間数	2 時間
学習到達目標	<p>・学校の特徴でもある複数分野の授業を横断的に学習し、視野を広げ見地を高める。</p> <p>・授業内における複数のカリキュラムメニューから自身の興味関心のあるものを選び学習をすることで無理なく学びにつなげることができ、自身の可能性と得意分野を広げていく。</p>			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	ゼミごとに異なる			
授業外学習の方法	ゼミごとに異なる			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	15	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。	
	16	選択基礎1	選択授業の基礎を学ぶ。	
	17	選択基礎2	選択授業の基礎を学ぶ。	
	18	選択基礎3	選択授業の基礎を学ぶ。	
	19	選択基礎4	選択授業の基礎を学ぶ。	
	20	選択基礎5	選択授業の基礎を学ぶ。	
	21	選択基礎6	選択授業の基礎を学ぶ。	
	22	選択基礎7	選択授業の基礎を学ぶ。	
	23	選択基礎8	選択授業の基礎を学ぶ。	
	24	選択基礎9	選択授業の基礎を学ぶ。	
	25	選択基礎10	選択授業の基礎を学ぶ。	
	26	選択基礎11	選択授業の基礎を学ぶ。	
	27	選択基礎12	期末試験範囲発表、期末試験範囲振り返り	
28	期末試験	期末試験		
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 				

授業計画(シラバス)

科目名	クロスオーバーゼミクロスオーバーゼミⅡ	指導担当者名	常勤
実務経験	無		
開講時期	通年	対象学科学年	全学科 2年生
授業方法	講義:	演習: ○	実習: 実技:
年間時間数	56 時間	週時間数	2 時間
学習到達目標	<p>・学校の特徴でもある複数分野の授業を横断的に学習し、視野を広げ見地を高める。</p> <p>・授業内における複数のカリキュラムメニューから自身の興味関心のあるものを選び学習をすることで無理なく学びにつなげることができ、自身の可能性と得意分野を広げていく。</p>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	ゼミごとに異なる		
授業外学習の方法	ゼミごとに異なる		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。
	2	選択基礎1	選択授業の基礎を学ぶ。
	3	選択基礎2	選択授業の基礎を学ぶ。
	4	選択基礎3	選択授業の基礎を学ぶ。
	5	選択基礎4	選択授業の基礎を学ぶ。
	6	選択基礎5	選択授業の基礎を学ぶ。
	7	選択基礎6	選択授業の基礎を学ぶ。
	8	選択基礎7	選択授業の基礎を学ぶ。
	9	選択基礎8	選択授業の基礎を学ぶ。
	10	選択基礎9	選択授業の基礎を学ぶ。
	11	選択基礎10	選択授業の基礎を学ぶ。
	12	選択基礎11	選択授業の基礎を学ぶ。
	13	選択基礎12	期末試験範囲発表、期末試験範囲振り返り
	14	期末試験	期末試験
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	クロスオーバーゼミクロスオーバーゼミⅡ		指導担当者名	常勤
実務経験	無			
開講時期	通年	対象学科学年	全学科 2年生	
授業方法	講義:	演習: ○	実習:	実技:
年間時間数	56 時間		週時間数	2 時間
学習到達目標	<p>・学校の特徴でもある複数分野の授業を横断的に学習し、視野を広げ見地を高める。</p> <p>・授業内における複数のカリキュラムメニューから自身の興味関心のあるものを選び学習をすることで無理なく学びにつなげることができ、自身の可能性と得意分野を広げていく。</p>			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	ゼミごとに異なる			
授業外学習の方法	ゼミごとに異なる			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	15	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。	
	16	選択基礎1	選択授業の基礎を学ぶ。	
	17	選択基礎2	選択授業の基礎を学ぶ。	
	18	選択基礎3	選択授業の基礎を学ぶ。	
	19	選択基礎4	選択授業の基礎を学ぶ。	
	20	選択基礎5	選択授業の基礎を学ぶ。	
	21	選択基礎6	選択授業の基礎を学ぶ。	
	22	選択基礎7	選択授業の基礎を学ぶ。	
	23	選択基礎8	選択授業の基礎を学ぶ。	
	24	選択基礎9	選択授業の基礎を学ぶ。	
	25	選択基礎10	選択授業の基礎を学ぶ。	
	26	選択基礎11	選択授業の基礎を学ぶ。	
	27	選択基礎12	期末試験範囲発表、期末試験範囲振り返り	
28	期末試験	期末試験		
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 				

授業計画(シラバス)

科目名	クロスオーバーゼミクロスオーバーゼミⅢ	指導担当者名	常勤
実務経験	無		
開講時期	通年	対象学科学年	全学科 1年生
授業方法	講義:	演習: ○	実習: 実技:
年間時間数	56 時間	週時間数	2 時間
学習到達目標	<p>・学校の特徴でもある複数分野の授業を横断的に学習し、視野を広げ見地を高める。</p> <p>・授業内における複数のカリキュラムメニューから自身の興味関心のあるものを選び学習をすることで無理なく学びにつなげることができ、自身の可能性と得意分野を広げていく。</p>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	ゼミごとに異なる		
授業外学習の方法	ゼミごとに異なる		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。
	2	選択基礎1	選択授業の基礎を学ぶ。
	3	選択基礎2	選択授業の基礎を学ぶ。
	4	選択基礎3	選択授業の基礎を学ぶ。
	5	選択基礎4	選択授業の基礎を学ぶ。
	6	選択基礎5	選択授業の基礎を学ぶ。
	7	選択基礎6	選択授業の基礎を学ぶ。
	8	選択基礎7	選択授業の基礎を学ぶ。
	9	選択基礎8	選択授業の基礎を学ぶ。
	10	選択基礎9	選択授業の基礎を学ぶ。
	11	選択基礎10	選択授業の基礎を学ぶ。
	12	選択基礎11	選択授業の基礎を学ぶ。
	13	選択基礎12	期末試験範囲発表、期末試験範囲振り返り
	14	期末試験	期末試験
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	クロスオーバーゼミクロスオーバーゼミⅢ		指導担当者名	常勤
実務経験	無			
開講時期	通年	対象学科学年	全学科 1年生	
授業方法	講義:	演習: ○	実習:	実技:
年間時間数	56 時間		週時間数	2 時間
学習到達目標	<p>・学校の特徴でもある複数分野の授業を横断的に学習し、視野を広げ見地を高める。</p> <p>・授業内における複数のカリキュラムメニューから自身の興味関心のあるものを選び学習をすることで無理なく学びにつなげることができ、自身の可能性と得意分野を広げていく。</p>			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	ゼミごとに異なる			
授業外学習の方法	ゼミごとに異なる			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	15	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。	
	16	選択基礎1	選択授業の基礎を学ぶ。	
	17	選択基礎2	選択授業の基礎を学ぶ。	
	18	選択基礎3	選択授業の基礎を学ぶ。	
	19	選択基礎4	選択授業の基礎を学ぶ。	
	20	選択基礎5	選択授業の基礎を学ぶ。	
	21	選択基礎6	選択授業の基礎を学ぶ。	
	22	選択基礎7	選択授業の基礎を学ぶ。	
	23	選択基礎8	選択授業の基礎を学ぶ。	
	24	選択基礎9	選択授業の基礎を学ぶ。	
	25	選択基礎10	選択授業の基礎を学ぶ。	
	26	選択基礎11	選択授業の基礎を学ぶ。	
	27	選択基礎12	期末試験範囲発表、期末試験範囲振り返り	
	28	期末試験	期末試験	
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 				

授業計画(シラバス)

科目名	クロスオーバーゼミクロスオーバーゼミⅣ	指導担当者名	常勤
実務経験	無		
開講時期	通年	対象学科学年	全学科 1年生
授業方法	講義:	演習: ○	実習: 実技:
年間時間数	56 時間	週時間数	2 時間
学習到達目標	<p>・学校の特徴でもある複数分野の授業を横断的に学習し、視野を広げ見地を高める。</p> <p>・授業内における複数のカリキュラムメニューから自身の興味関心のあるものを選び学習をすることで無理なく学びにつなげることができ、自身の可能性と得意分野を広げていく。</p>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	ゼミごとに異なる		
授業外学習の方法	ゼミごとに異なる		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。
	2	選択基礎1	選択授業の基礎を学ぶ。
	3	選択基礎2	選択授業の基礎を学ぶ。
	4	選択基礎3	選択授業の基礎を学ぶ。
	5	選択基礎4	選択授業の基礎を学ぶ。
	6	選択基礎5	選択授業の基礎を学ぶ。
	7	選択基礎6	選択授業の基礎を学ぶ。
	8	選択基礎7	選択授業の基礎を学ぶ。
	9	選択基礎8	選択授業の基礎を学ぶ。
	10	選択基礎9	選択授業の基礎を学ぶ。
	11	選択基礎10	選択授業の基礎を学ぶ。
	12	選択基礎11	選択授業の基礎を学ぶ。
	13	選択基礎12	期末試験範囲発表、期末試験範囲振り返り
	14	期末試験	期末試験
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	クロスオーバーゼミクロスオーバーゼミⅣ		指導担当者名	常勤
実務経験	無			
開講時期	通年	対象学科学年	全学科 1年生	
授業方法	講義:	演習: ○	実習:	実技:
年間時間数	56 時間		週時間数	2 時間
学習到達目標	<p>・学校の特徴でもある複数分野の授業を横断的に学習し、視野を広げ見地を高める。</p> <p>・授業内における複数のカリキュラムメニューから自身の興味関心のあるものを選び学習をすることで無理なく学びにつなげることができ、自身の可能性と得意分野を広げていく。</p>			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	ゼミごとに異なる			
授業外学習の方法	ゼミごとに異なる			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	15	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。	
	16	選択基礎1	選択授業の基礎を学ぶ。	
	17	選択基礎2	選択授業の基礎を学ぶ。	
	18	選択基礎3	選択授業の基礎を学ぶ。	
	19	選択基礎4	選択授業の基礎を学ぶ。	
	20	選択基礎5	選択授業の基礎を学ぶ。	
	21	選択基礎6	選択授業の基礎を学ぶ。	
	22	選択基礎7	選択授業の基礎を学ぶ。	
	23	選択基礎8	選択授業の基礎を学ぶ。	
	24	選択基礎9	選択授業の基礎を学ぶ。	
	25	選択基礎10	選択授業の基礎を学ぶ。	
	26	選択基礎11	選択授業の基礎を学ぶ。	
	27	選択基礎12	期末試験範囲発表、期末試験範囲振り返り	
	28	期末試験	期末試験	
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 				

授業計画(シラバス)

科目名	色彩概論 I		指導担当者名	松岡純代
実務経験	有	制作会社、フリーカメラマンとして写真撮影業務に10年間従事し、現在も活躍中		
開講時期	通年	対象学科学年	トータルクリエイト・大学科	
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：
年間時間数	56 時間		週時間数	2 時間
学習到達目標	色彩検定3級合格を目指す			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	色彩概論テキスト			
授業外学習の方法	各授業実施前後の予習と復習の徹底をする			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	オリエンテーション	授業趣旨説明、簡単な実習	
	2	確認テスト番号	教科書、問題集PCCS	
	3	確認テスト色のはたらきについて	教科書、問題集色のはたらき、色とイメージ	
	4	確認テスト光と色	教科書、問題集色はなぜ見えるのか、目のしくみ	
	5	確認テスト混色	教科書、問題集照明と色の見え方、加法混色、減法混色	
	6	確認テスト色の分類と三属性	教科書、問題集色の三属性、等色相面	
	7	確認テストPCCS色相	教科書、問題集色相、明度、彩度、トーンのイメージ	
	8	確認テストトーン記号	教科書、問題集色相とトーンによる色の表示方法	
	9	確認テスト慣用色名①	教科書、問題集慣用句名、暖色と寒色	
	10	確認テスト色彩心理	教科書、問題集進出色と後退色、膨張色と収縮色	
	11	確認テスト色対比と錯視	教科書、問題集対比、同化効果、色陰現象、色の錯視	
	12	確認テスト色彩調和	教科書、問題集配色、色相から配色を考える	
	13	確認テスト色彩効果	教科書、問題集配色技法、色彩と構成	
	14	レポート作成	まとめ	
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 				

授業計画(シラバス)

科目名	色彩概論 I		指導担当者名	松岡純代
実務経験	有	制作会社、フリーカメラマンとして写真撮影業務に10年間従事し、現在も活躍中		
開講時期	通年	対象学科学年	トータルクリエイト・大学科	
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：
年間時間数	56 時間		週時間数	2 時間
学習到達目標	色彩検定3級合格を目指す			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは。A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	色彩概論テキスト			
授業外学習の方法	各授業実施前後の予習と復習の徹底をする			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	15	確認テスト授業説明	教科書、問題集	
	16	確認テスト色彩と生活	教科書、問題集生活環境と色彩、生活環境とカラーコーディネーション	
	17	確認テストファッションと色彩	教科書、問題集ファッションとは、ファッションコーディネートにおける色彩、基本的なカラーコーディネート	
	18	確認テストインテリアと色彩	教科書、問題集インテリアとは、住宅インテリアの色彩	
	19	確認テストインテリアのカラーコーディネーション	教科書、問題集インテリアのカラーコーディネーション、インテリアにおける色の心理的効果	
	20	確認テストコーポレートカラー	教科書、問題集インテリアの配色、インテリアにおける色彩検討、コーポレートカラー	
	21	確認テスト慣用色名②	教科書、問題集慣用句名説明	
	22	確認テスト過去問題	2017夏解答と解説	
	23	確認テスト過去問題	2017冬解答と解説	
	24	確認テスト過去問題	2018夏解答と解説	
	25	確認テスト過去問題	2018冬解答と解説	
	26	確認テスト過去問題	2019夏解答と解説	
	27	色彩検定2級についての説明	次年度概要説明	
	28	レポート作成	まとめ	
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 				

授業計画(シラバス)

科目名	色彩概論Ⅱ		指導担当者名	大坂美智子
実務経験	有	パソコン教室でデザイナー業務に10年従事		
開講時期	通年	対象学科学年	トータルクリエイト・大学科	
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：
年間時間数	56 時間		週時間数	2 時間
学習到達目標	<p>色彩検定2級合格のための学習 テキスト、問題集、過去の検定試験などで学習を進める。カラーカードを使用した実技を取り入れて、配色に関する知識を身に付けていく。前期1回・後期1回アンケート実施し。疑問質問に答える時間をつくり受験に対する不安を減らしサポートごうかくを目指していく。</p>			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは。A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	2級テキスト、3級テキスト、問題集、カラーカード等			
授業外学習の方法	授業内容の予習、復習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	授業趣旨説明、学習方法確認・3級振り返り・色彩動画観賞・次回準備	
	2	確認テスト配色イメージ・色彩調和生活と色	教科書、問題集、豆テスト・トーン別色相環制作・配色イメージと色彩調和	
	3	確認テスト配色イメージ・色彩調和生活と色	教科書、問題集・豆テスト・色彩調和	
	4	確認テスト色彩調和・色のUD光と色	教科書、問題集・豆テスト・色彩調和と色のUD	
	5	確認テスト色のUD・光と色	教科書、問題集・豆テスト・色のUDと光と色	
	6	確認テスト光と色・マンセル表色系	教科書、問題集・豆テスト・光と色とマンセル表色系	
	7	確認テストマンセル・色彩心理・ビジュアル	教科書、問題集・豆テスト・マンセル表色系と色彩心理とビジュアル	
	8	確認テストビジュアル・ファッション	教科書、問題集・豆テスト・ビジュアルとファッション・テキスト前半部確認テストインフォメーション	
	9	テキスト確認テストファッション・インテリア	・テキスト前半部確認テスト実施・教科書、問題集ファッションとインテリア・期末テストインフォメーション	
	10	確認テスト・インテリア・景観	教科書、問題集 インテリア・景観色彩	
	11	確認テスト景観	教科書、問題集景観色彩	
	12	テキストまとめ	・テキストまとめ・アンケート実施・夏休み中の宿題インフォメーション	
	13	前期末試験	期末試験・インフォメーションとアンケート実施	
	14	前期振り返り	前期振り返り	
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 				

授業計画(シラバス)

科目名	色彩概論Ⅱ		指導担当者名	大坂美智子
実務経験	有	パソコン教室でデザイナー業務に10年従事		
開講時期	通年	対象学科学年	トータルクリエイト・大学科	
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：
年間時間数	56 時間		週時間数	2 時間
学習到達目標	<p>色彩検定2級合格のための学習 テキスト、問題集、過去の検定試験などで学習を進める。カラーカードを使用した実技を取り入れて、配色に関する知識を身に付けていく。前期1回・後期1回アンケート実施し。疑問質問に答える時間をつくり受験に対する不安を減らしサポートごうかくを目指していく。</p>			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは。A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	2級テキスト、3級テキスト、問題集、カラーカード等			
授業外学習の方法	授業内容の予習、復習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	15	宿題回収・テキスト振り返り	・夏休み課題提出日・教科書、問題集・過去問各章ごと実施と振り返り	
	16	各章の過去問実施	教科書、問題集・過去問各章テスト実施と振り返り	
	17	各章の過去問実施	教科書、問題集・過去問各章テスト・実施と振り返り	
	18	各章の過去問実施	教科書、問題集過去問各章テスト実施・進捗確認アンケート実施・次回インフォメーション	
	19	確認テスト過去問題	過去問実施(70分)・試験対策勉強方法ポイント解説とテキスト振り返り	
	20	確認テスト過去問題	過去問実施(70分)・試験対策ポイント解説とテキスト振り返り	
	21	確認テスト過去問題	過去問実施(70分)・試験対策ポイント解説とテキスト振り返り	
	22	確認テスト過去問題	2017夏解答と解説	
	23	確認テスト過去問題	2017冬解答と解説	
	24	確認テスト過去問題	2018夏解答と解説	
	25	確認テスト過去問題	2018冬解答と解説	
	26	確認テスト過去問題	2019夏解答と解説	
	27	後期期末試験	期末試験・インフォメーションとアンケート実施	
	28	後期振り返り	後期振り返り	
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 				

授業計画(シラバス)

科目名	デジタルソフト実習 I		指導担当者名	荻野 美保
実務経験	有	デザイン会社・広告代理店、デザイン制作業務に6年従事		
開講時期	通年	対象学科学年	トータルクリエイト・大学科	
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:
年間時間数	56 時間		週時間数	2 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルにおけるイラスト表現の基礎を習得する ・フォトショップ、イラストレーターの使用技術の習得 ・フォトショップ検定初級を取得する(12月実施予定) ・イラストレーター検定初級を取得する(8月実施予定) 			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	Machintosh PC, IllustratorクイックマスターCC(Win/Mac) 対応, PhotoshopクイックマスターCC(Win/Mac) 対応			
授業外学習の方法	・テキストを使つての事前予習 ・テキストを使つての実技練習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 前期	1	Illustrator検定対策(スタンダード)	クイックマスターIllustratorの基礎知識/インターフェース・ツール・パネル	
	2	Illustrator検定対策(スタンダード)	クイックマスターIllustratorの基礎知識/アートワーク・アートボードナビゲーター・ガイド・環境設定	
	3	Illustrator検定対策(スタンダード)	クイックマスターIllustratorの基本操作/オブジェクトの設定と描画	
	4	Illustrator検定対策(スタンダード)	クイックマスターIllustratorの基本操作/編集操作(CP・前後関係・グループ化・移動)	
	5	Illustrator検定対策(スタンダード)	クイックマスターIllustratorの基本操作/カラー設定・レイヤーオブジェクトの組み合わせ	
	6	Illustrator検定対策(スタンダード)	クイックマスターIllustratorの基本操作/文字の作成・文字関連の機能	
	7	Illustrator検定対策(スタンダード)	クイックマスターIllustratorの基本操作/パスの基本的な描画と編集	
	8	Illustrator検定対策(スタンダード)	クイックマスターIllustratorの応用操作/線とアピランス	
	9	Illustrator検定対策(スタンダード)	クイックマスターIllustratorの応用操作/レイアウトの補助機能	
	10	Illustrator検定対策(スタンダード)	クイックマスターIllustratorの応用操作/グラデーション・スウォッチ・パターン	
	11	過去問題	スタンダード模擬問題-1 解説	
	12	過去問題	スタンダード模擬問題-2 解説	
	13	前期期末試験	実際の試験同様の時間で知識と実技試験の実施	
	14	期末試験フィードバック	検定試験前の最終確認授業	
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 				

授業計画(シラバス)

科目名	デジタルソフト実習 I		指導担当者名	荻野 美保
実務経験	有	デザイン会社・広告代理店、デザイン制作業務に6年従事		
開講時期	通年	対象学科学年	トータルクリエイト・大学科	
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:
年間時間数	56 時間		週時間数	2 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルにおけるイラスト表現の基礎を習得する ・フォトショップ、イラストレーターの使用技術の習得 ・フォトショップ検定初級を取得する(12月実施予定) ・イラストレーター検定初級を取得する(8月実施予定) 			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	Machintosh PC, IllustratorクイックマスターCC(Win/Mac) 対応, PhotoshopクイックマスターCC(Win/Mac) 対応			
授業外学習の方法	・テキストを使つての事前予習 ・テキストを使つての実技練習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 後 期	15	Photoshop検定対策(スタンダード)	クイックマスターPhotoshopの基礎知識/インターフェース・ドキュメントウインドウ・ツール・パネル	
	16	Photoshop検定対策(スタンダード)	クイックマスターPhotoshopの基礎知識/画面表示・色の選択・環境設定	
	17	Photoshop検定対策(スタンダード)	クイックマスターPhotoshopの基本操作/選択ツール・範囲の読み込み	
	18	Photoshop検定対策(スタンダード)	クイックマスターPhotoshopの基本操作/画像解像度とサイズトリミング	
	19	Photoshop検定対策(スタンダード)	クイックマスターPhotoshopの基本操作/変形・カラーモード色調補正	
	20	Photoshop検定対策(スタンダード)	クイックマスターPhotoshopの基本操作/ペイント・レタッチ・レイヤーの操作	
	21	Photoshop検定対策(スタンダード)	クイックマスターPhotoshopの基本操作/パス・切抜・シェイプ・フィルター・テキストの入力について	
	22	Photoshop検定対策(スタンダード)	クイックマスターPhotoshopの応用操作/コンテンツ制作・ロゴ制作/カスタムシェイプ	
	23	Photoshop検定対策(スタンダード)	クイックマスターPhotoshopの応用操作/コンテンツ制作・フォトカード/アクション	
	24	Photoshop検定対策(スタンダード)	クイックマスターPhotoshopの応用操作/Webページの制作	
	25	過去問題	スタンダード模擬問題-1 解説	
	26	過去問題	スタンダード模擬問題-2 解説	
	27	前期期末試験	実際の試験同様の時間で知識と実技試験の実施	
	28	期末試験フィードバック	検定試験前の最終確認授業	
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 				

授業計画(シラバス)

科目名	デジタルソフト実習Ⅱ		指導担当者名	荻野 美保
実務経験	有	デザイン会社・広告代理店、デザイン制作業務に6年従事		
開講時期	通年	対象学科学年	トータルクリエイト・大学科	
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:
年間時間数	56 時間		週時間数	2 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルにおけるイラスト表現の応用を習得する ・アプリケーションのアドバンススキル習得 * 前期では サーティファイ Illustratorクリエイター能力認定試験エキスパート 取得を目指す * 後期では サーティファイ photoshopクリエイター能力認定試験エキスパート 取得を目指す 			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	MACPC Illustrator®クイックマスター CC (Win/Mac) 対応、Photoshop®クイックマスターCC (Win/Mac) 対応			
授業外学習の方法	・テキストを使つての事前予習 ・テキストを使つての実技練習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 前期	1	Illustrator検定実技対策(エキスパート)	クイックマスター 2部応用編 チャプター1 オブジェクトの描画 線 レイアウトの補助機能	
	2	Illustrator検定実技対策(エキスパート)	クイックマスター チャプター2 スウォッチ、パターン、グラデーション、アピアランス	
	3	Illustrator検定実技対策(エキスパート)	クイックマスター チャプター3 レイヤー応用 チャプター4 パス上文字入力、文字種類、文字関連機能 チャプター5 パスの編集	
	4	Illustrator検定実技対策(エキスパート)	クイックマスター 第3部 コンテンツの制作編 チャプター1 制作	
	5	Illustrator検定実技対策(エキスパート)	クイックマスター 第3部 コンテンツの制作編 チャプター2 制作	
	6	Illustrator検定実技対策(エキスパート)	クイックマスター 第3部 チャプター3 WEB用に保存する、WEBパーツデザインをする	
	7	Illustrator検定実技対策(エキスパート)	クイックマスター 第3部 チャプター4 グラフの基本操作、グラフのデザインをカスタマイズする	
	8	Illustrator検定実技対策(エキスパート)	クイックマスター 第3部 チャプター4 グラフの基本操作、グラフのデザインをカスタマイズする	
	9	Illustrator検定実技対策(エキスパート)	クイックマスター 第3部 チャプター5 DTPのための環境設定、名刺デザイン	
	10	Illustrator検定実技対策(エキスパート)	クイックマスター 第3部 チャプター5 写真を配置したDM、見開きパンフレットのデザイン	
	11	過去問題	一昨年の問題の実践と解説	
	12	過去問題	昨年の問題の実践と解説	
	13	期末試験	実際の試験同様の時間で知識と実技試験の実施	
	14	前期振り返り	検定試験前の最終確認授業	
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 				

授業計画(シラバス)

科目名	デジタルソフト実習Ⅱ		指導担当者名	荻野 美保
実務経験	有	デザイン会社・広告代理店、デザイン制作業務に6年従事		
開講時期	通年	対象学科学年	トータルクリエイト・大学科	
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:
年間時間数	56 時間		週時間数	2 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルにおけるイラスト表現の応用を習得する ・アプリケーションのアドバンススキル習得 * 前期では サーティファイ Illustratorクリエイター能力認定試験エキスパート 取得を目指す * 後期では サーティファイ photoshopクリエイター能力認定試験エキスパート 取得を目指す 			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	MACPC Illustrator®クイックマスター CC (Win/Mac) 対応、Photoshop®クイックマスターCC (Win/Mac) 対応			
授業外学習の方法	・テキストを使つての事前予習 ・テキストを使つての実技練習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	15	Photoshop検定対策(エキスパート)	クイックマスター 第2部 コンテンツ制作編 チャプター1 色調補正ツールの基本ワザ、食べ物の写真を補正する	
	16	Photoshop検定対策(エキスパート)	クイックマスター チャプター1 曇天の裏路地を夕暮れに変える、ロゴデザイン	
	17	Photoshop検定対策(エキスパート)	クイックマスター チャプター2 ロゴデザイン、カスタムシェイプとカスタムスタイルで制作、爆けたナンバープレートの制作	
	18	Photoshop検定対策(エキスパート)	クイックマスター チャプター3 アクションで作るミニフォトカード、写真から作る立体ポップ、フィルターで作るブックカバー	
	19	Photoshop検定対策(エキスパート)	クイックマスター チャプター4 フォトコラージュ	
	20	Photoshop検定対策(エキスパート)	クイックマスター チャプター5 WEBサイトデザイン	
	21	Photoshop検定対策(エキスパート)	1年次からの振り返り、基本操作編1 P10~59	
	22	Photoshop検定対策(エキスパート)	1年次からの振り返り、基本操作編1 P60~119	
	23	Photoshop検定対策(エキスパート)	2年次習得用語振り返り、P120~181	
	24	Photoshop検定対策(エキスパート)	2年次習得用語振り返り、P182~246	
	25	過去問題	一昨年前の過去問題の実施と解説	
	26	過去問題	昨年度の過去問題の実施と解説	
	27	期末試験	実際の試験同様の時間で知識と実技試験の実施	
	28	後期振り返り	検定試験前の最終確認授業	
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 				

授業計画(シラバス)

科目名	CG概論 I		指導担当者名	仲井 ひかる
実務経験	有	フリーで8年間、CGイラスト、アニメーション制作に従事		
開講時期	通年	対象学科学年	トータルクリエイト・大学科	
授業方法	講義: ○	演習:	実習:	実技:
年間時間数	56 時間		週時間数	2 時間
学習到達目標	CGについての基礎的概論でCGに関する知識を習得する事を目標とする。 11月に行われるCG検定ベーシックの取得を目標とする。 基礎的CGの知識習得を目的とする。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	・入門CGデザイン(CGARTS) ・問題集(CGARTS)			
授業外学習の方法	教科書復習、過去問題復習、弱点確認と弱点単元の復習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	オリエンテーション	授業の目的、使用教材評価基準説明、P1~21	
	2	CGとは、表現の基礎	P22~39	
	3	2次元CG	P40~49	
	4	写真撮影とレタッチ	P50~57	
	5	キーワードまとめ	P57~68	
	6	小テスト1	小テスト	
	7	3次元CG「モデリング～マッピング」	P69~88	
	8	3次元CG「アニメーション」	P88~99	
	9	3次元CG「ライティング」	P100~108	
	10	3次元CG「レンダリング～編集」	P109~126	
	11	小テスト2	小テスト	
	12	技術の基礎	P127~146	
	13	知的財産権	P147~154	
	14	期末試験	テキスト全体を範囲としたテスト40問	
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 				

授業計画(シラバス)

科目名	CG概論 I		指導担当者名	仲井 ひかる
実務経験	有	フリーで8年間、CGイラスト、アニメーション制作に従事		
開講時期	通年	対象学科学年	トータルクリエイト・大学科	
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：
年間時間数	56 時間		週時間数	2 時間
学習到達目標	CGについての基礎的概論でCGに関する知識を習得する事を目標とする。 11月に行われるCG検定ベーシックの取得を目標とする。 基礎的CGの知識習得を目的とする。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	・入門CGデザイン(CGARTS) ・問題集(CGARTS)			
授業外学習の方法	教科書復習、過去問題復習、弱点確認と弱点単元の復習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	15	前期復習	テキスト全体を総復習	
	16	2019年前期問題	過去問題回答と解説	
	17	2019年後期問題	過去問題回答と解説	
	18	2020年前期問題	過去問題回答と解説	
	19	2020年後期問題	過去問題回答と解説	
	20	2021年前期問題	過去問題回答と解説	
	21	2021年後期問題	過去問題回答と解説	
	22	2023年前期問題	過去問題回答と解説	
	23	2018年前期問題	過去問題回答と解説	
	24	2021年後期問題	過去問題回答と解説	
	25	2022年前期問題	過去問題回答と解説	
	26	2022年後期問題	過去問題回答と解説	
	27	個別指導	個人別弱点特攻授業	
	28	直前模試	試験前総復習	
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 				

授業計画(シラバス)

科目名	CG概論Ⅱ		指導担当者名	橋本 若奈
実務経験	有	フリーで5年間動画配信を行う。伴ってCG制作にも従事		
開講時期	通年	対象学科学年	トータルクリエイト・大学科	
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：
年間時間数	56 時間		週時間数	2 時間
学習到達目標	<p>CGについての応用的概論でCGに関する知識を習得する事を目標とする。 〈通年〉CGARTS協会 CGエンジニア検定ベーシックの合格を目標とする。 〈前期〉CG・画像処理などの基礎知識・技術を学習し、期末試験での合格を目標とする。 〈後期〉過去問題、公式問題集の実施・解説を通じて知識の確認を毎週行い、検定試験の合格を目標とする。</p>			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	・CGARTS協会 ビジュアル情報処理			
授業外学習の方法	教科書復習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	オリエンテーション, Chapter1①	デジタルカメラモデル①	
	2	Chapter1②	デジタルカメラモデル②	
	3	Chapter2①	モデリング①	
	4	Chapter2②	モデリング②	
	5	Chapter3①	レンダリング①	
	6	Chapter3②	レンダリング②	
	7	Chapter4①	アニメーション①	
	8	Chapter4②	アニメーション②	
	9	Chapter5①	画像の濃淡返還とフィルタリング処理①	
	10	Chapter5②	画像の濃淡返還とフィルタリング処理②	
	11	Chapter6①	画像の解析①	
	12	Chapter6②	画像の解析②	
	13	【期末模擬問題】	各Chapter復習のための小テスト	
	14	【前期期末試験】	Chapter1～6を範囲として期末試験	
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 				

授業計画(シラバス)

科目名	CG概論Ⅱ		指導担当者名	橋本 若奈
実務経験	有	フリーで5年間動画配信を行う。伴ってCG制作にも従事		
開講時期	通年	対象学科学年	トータルクリエイト・大学科	
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：
年間時間数	56 時間		週時間数	2 時間
学習到達目標	<p>CGについての応用的概論でCGに関する知識を習得する事を目標とする。 〈通年〉CGARTS協会 CGエンジニア検定ベーシックの合格を目標とする。 〈前期〉CG・画像処理などの基礎知識・技術を学習し、期末試験での合格を目標とする。 〈後期〉過去問題、公式問題集の実施・解説を通じて知識の確認を毎週行い、検定試験の合格を目標とする。</p>			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A, B, Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	・CGARTS協会 ビジュアル情報処理			
授業外学習の方法	教科書復習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	15	Chapter7	パターン・特徴の検出とパターン認識	
	16	Chapter8	シーンの復元	
	17	Chapter9	ビジュアル情報処理システム	
	18	知的財産権, 2018年後期問題	知的財産権の復習、過去問題回答と解説	
	19	2019前期問題	過去問題回答と解説	
	20	2019後期問題	過去問題回答と解説	
	21	2020後期問題	過去問題回答と解説	
	22	2021前期問題	過去問題回答と解説	
	23	2021後期問題	過去問題回答と解説	
	24	2022前期問題	過去問題回答と解説	
	25	2022後期問題	過去問題回答と解説	
	26	2023前期問題	過去問題回答と解説	
	27	個別指導	個人別弱点特攻授業	
	28	直前模試	キーワードのおさらい、模擬試験	
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 				

授業計画(シラバス)

科目名	MOS演習 I		指導担当者名	渡邊 惇基
実務経験	無			
開講時期	通年	対象学科学年	トータルクリエイト・大学科	
授業方法	講義:	演習: ○	実習:	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・MOSの基礎的実習でMOSについて習得する事を目標とする。 ・MOS Word、Excelの取得を目標とする。 * CG1,3年、espo合同授業 			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	・制作ツール			
授業外学習の方法	過去問題復習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	現状のポートフォリオの合評	
	2	第1章 Wordの基礎知識1	Step1 Wordの概要Step2 Wordを起動するStep3 文書を開く	
	3	第1章 Wordの基礎知識2	Step4 Wordの画面構成Step5 文書を閉じるStep6 Wordを終了する	
	4	第2章 文字の入力2	Step1 新しい文書を作成するStep2 IMEを設定するStep3 文字を入力する	
	5	第2章 文字の入力3	Step4 文字を変換するStep5 文章を変換するStep6 文書を保存する	
	6	第3章 文書の作成1	Step1 作成する文書を確認するStep2 ページのレイアウトを設定するStep3 文章を入力する	
	7	第3章 文書の作成2	Step4 範囲を選択するStep5 文字を削除・挿入するStep6 文字をコピー・移動するStep7 文章の体裁を整えるStep8 文書を印刷する	
	8	第3章 文書の作成3	練習問題	
	9	第4章 表の作成1	Step1 作成する文書を確認するStep2 表を作成するStep3 表の範囲を選択する	
	10	第4章 表の作成2	Step4 表のレイアウトを変更するStep5 表に書式を設定するStep6 表にスタイルを適用するStep7 水平線を挿入する	
	11	第4章 表の作成3	練習問題	
	12	第5章 グラフィック機能の利用1	Step1 作成する文書を確認するStep2 ワードアートを挿入するStep3 画像を挿入する	
	13	第5章 グラフィック機能の利用2	Step4 文字の効果を設定するStep5 ページ罫線を設定する練習問題	
	14	Word試験	外部受験	
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 				

授業計画(シラバス)

科目名	MOS演習 I		指導担当者名	渡邊 惇基
実務経験	無			
開講時期	通年	対象学科学年	トータルクリエイト・大学科	
授業方法	講義:	演習: ○	実習:	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・MOSの基礎的実習でMOSについて習得する事を目標とする。 ・MOS Word、Excelの取得を目標とする。 * CG1,3年、espo合同授業 			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	・制作ツール			
授業外学習の方法	過去問題復習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	15	第1章 Excelの基礎知識1	Step1 Excelの概要Step2 Excelを起動するStep3 ブックを開くStep4 Excelの画面構成	
	16	第1章 Excelの基礎知識2	Step5 ブックを操作するStep6 ブックを閉じるStep7 Excelを終了する	
	17	第2章 データの入力1	Step1 新しいブックを作成するStep2 データを入力するStep3 データを編集するStep4 セル範囲を選択するStep5 ブックを保存するStep6 オートフィルを利用する	
	18	第2章 データの入力2	練習問題	
	19	第3章 表の作成1	Step1 作成するブックを確認するStep2 関数を入力するStep3 セルを参照するStep4 表にレイアウトを設定する	
	20	第3章 表の作成2	Step5 データを装飾するStep6 配置を調整するStep7 列の幅を変更するStep8 行を挿入・削除するStep9 表を印刷する	
	21	第3章 表の作成3	練習問題	
	22	第4章 グラフの作成1	Step1 作成するグラフを確認するStep2 グラフ機能の概要Step3 円グラフを作成するStep4 縦棒グラフを作成する	
	23	第4章 グラフの作成2	練習問題	
	24	第5章 データベースの利用1	Step1 操作するデータベースを確認するStep2 データベース機能の概要Step3 データを並べ替えるStep4 データを抽出する	
	25	第5章 データベースの利用2	練習問題	
	26	過去問題1	MOS模試1	
	27	過去問題2	MOS模試2	
28	Excel試験	外部受験		
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 				

授業計画(シラバス)

科目名	MOS演習Ⅱ		指導担当者名	渡邊 惇基
実務経験	無			
開講時期	通年	対象学科学年	トータルクリエイト・大学科	
授業方法	講義:	演習: ○	実習:	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	<p>・MOS Word、Excelの取得を目標とする。 * CG1,3年、espo合同授業</p>			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	・制作ツール			
授業外学習の方法	過去問題復習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	現状のポートフォリオの合評	
	2	第1章 Wordの基礎知識1	Step1 Wordの概要Step2 Wordを起動するStep3 文書を開く	
	3	第1章 Wordの基礎知識2	Step4 Wordの画面構成Step5 文書を閉じるStep6 Wordを終了する	
	4	第2章 文字の入力2	Step1 新しい文書を作成するStep2 IMEを設定するStep3 文字を入力する	
	5	第2章 文字の入力3	Step4 文字を変換するStep5 文章を変換するStep6 文書を保存する	
	6	第3章 文書の作成1	Step1 作成する文書を確認するStep2 ページのレイアウトを設定するStep3 文章を入力する	
	7	第3章 文書の作成2	Step4 範囲を選択するStep5 文字を削除・挿入するStep6 文字をコピー・移動するStep7 文章の体裁を整えるStep8 文書を印刷する	
	8	第3章 文書の作成3	練習問題	
	9	第3章 文書の作成4	Step1 作成する文書を確認するStep2 表を作成するStep3 表の範囲を選択する	
	10	第4章 表の作成2	Step4 表のレイアウトを変更するStep5 表に書式を設定するStep6 表にスタイルを適用するStep7 水平線を挿入する	
	11	第4章 表の作成3	練習問題	
	12	第5章 グラフィック機能の利用1	Step1 作成する文書を確認するStep2 ワードアートを挿入するStep3 画像を挿入する	
	13	第5章 グラフィック機能の利用2	Step4 文字の効果を設定するStep5 ページ罫線を設定する練習問題	
	14	Word試験	外部受験	
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 				

授業計画(シラバス)

科目名	MOS演習Ⅱ		指導担当者名	渡邊 惇基
実務経験	無			
開講時期	通年	対象学科学年	トータルクリエイティブ・大学科	
授業方法	講義:	演習: ○	実習:	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	<p>・MOS Word、Excelの取得を目標とする。 * CG1,3年、espo合同授業</p>			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	・制作ツール			
授業外学習の方法	過去問題復習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	15	第1章 Excelの基礎知識1	Step1 Excelの概要Step2 Excelを起動するStep3 ブックを開くStep4 Excelの画面構成	
	16	第1章 Excelの基礎知識2	Step5 ブックを操作するStep6 ブックを閉じるStep7 Excelを終了する	
	17	第2章 データの入力1	Step1 新しいブックを作成するStep2 データを入力するStep3 データを編集するStep4 セル範囲を選択するStep5 ブックを保存するStep6 オートフィルを利用する	
	18	第2章 データの入力2	練習問題	
	19	第3章 表の作成1	Step1 作成するブックを確認するStep2 関数を入力するStep3 セルを参照するStep4 表にレイアウトを設定する	
	20	第3章 表の作成2	Step5 データを装飾するStep6 配置を調整するStep7 列の幅を変更するStep8 行を挿入・削除するStep9 表を印刷する	
	21	第3章 表の作成3	練習問題	
	22	第4章 グラフの作成1	Step1 作成するグラフを確認するStep2 グラフ機能の概要Step3 円グラフを作成するStep4 縦棒グラフを作成する	
	23	第4章 グラフの作成2	練習問題	
	24	第5章 データベースの利用1	Step1 操作するデータベースを確認するStep2 データベース機能の概要Step3 データを並べ替えるStep4 データを抽出する	
	25	第5章 データベースの利用2	練習問題	
	26	過去問題1	MOS模試1	
	27	過去問題2	MOS模試2	
28	Excel試験	外部受験		
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 				

授業計画(シラバス)

科目名	ITパスポート演習 I		指導担当者名	渡邊 惇基
実務経験	無			
開講時期	通年	対象学科学年	トータルクリエイト・大学科	
授業方法	講義:	演習: ○	実習:	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	ITの知識を総合的に学び、ITパスポートの取得を目標とする。			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	PC、ITパスポート問題集、オリジナルテキスト			
授業外学習の方法	自宅での教材復習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	授業の流れ	
	2	目標設定と試験範囲の理解	試験の目標を明確にし、試験範囲を理解する。	
	3	コンピュータ基礎知識	コンピュータの基本的な構造や動作原理を学ぶ。	
	4	インターネット基礎知識	インターネットの基本的なプロトコルやネットワーク構成を学ぶ。	
	5	データベース基礎知識	データベース管理システム(DBMS)やSQLの基礎を学ぶ。	
	6	プログラミング言語基礎知識	プログラミング言語の基本的な概念や構文を学ぶ。	
	7	データセキュリティと対策	データのセキュリティとセキュリティ対策を学ぶ。	
	8	情報システムと業務システム	情報システムと業務システムの基礎知識を学ぶ。	
	9	法的規制と倫理	コンピュータ利用の法的な規制と倫理を学ぶ。	
	10	ネットワーク構成要素と技術	ネットワークの構成要素と通信技術を学ぶ。	
	11	ハードウェア構成と動作原理	コンピュータのハードウェア構成と動作原理を学ぶ。	
	12	オペレーティングシステム基礎知識	オペレーティングシステムの基本的な知識を学ぶ。	
	13	データ基礎知識と処理	データの基本的な知識と処理方法を学ぶ。	
	14	期末試験	レポート提出	
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 				

授業計画(シラバス)

科目名	ITパスポート演習 I		指導担当者名	渡邊 惇基
実務経験	無			
開講時期	通年	対象学科学年	トータルクリエイト・大学科	
授業方法	講義:	演習: ○	実習:	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	ITの知識を総合的に学び、ITパスポートの取得を目標とする。			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	PC、ITパスポート問題集、オリジナルテキスト			
授業外学習の方法	自宅での教材復習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 後 期	15	オリエンテーション	授業の流れ	
	16	ネットワークセキュリティと対策	ネットワークセキュリティとその対策を学ぶ。	
	17	インターネットサービスと技術	インターネットサービスとウェブ技術を学ぶ。	
	18	オフィスソフトウェア基礎知識	オフィスソフトウェアの基本的な知識を学ぶ。	
	19	プログラミング言語構文と概念	プログラミング言語の構文と基本的な概念を学ぶ。	
	20	システム開発基礎知識と手法	システム開発の基本的な知識と手法を学ぶ。	
	21	インターネット利用のリスクと対策	インターネット利用のリスクとセキュリティ対策を学ぶ。	
	22	データベース操作とSQL	データベースの基本的な操作とSQLクエリを学ぶ。	
	23	ネットワークトラブルシューティング	ネットワークのトラブルシューティングと回復手段を学ぶ。	
	24	ハードウェアトラブルシューティング	ネットワークのトラブルシューティングと回復手段を学ぶ。	
	25	オペレーティングシステム設定と管理	オペレーティングシステムの設定と管理を学ぶ。	
	26	プログラム作成とデバッグ手法	プログラムの作成とデバッグの基本的な手法を学ぶ。	
	27	システム運用と保守管理	システムの運用と保守管理に関する基礎知識を学ぶ。	
	28	期末試験	レポート提出	
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 				

授業計画(シラバス)

科目名	ITパスポート演習Ⅱ		指導担当者名	渡邊 惇基
実務経験	無			
開講時期	通年	対象学科学年	トータルクリエイト・大学科	
授業方法	講義:	演習: ○	実習:	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	ITの知識を総合的に学び、ITパスポートの取得を目標とする。			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	PC、ITパスポート問題集、オリジナルテキスト			
授業外学習の方法	自宅での教材復習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	授業の流れ	
	2	目標設定と試験範囲の理解	試験の目標を明確にし、試験範囲を理解する。	
	3	コンピュータ基礎知識	コンピュータの基本的な構造や動作原理を学ぶ。	
	4	インターネット基礎知識	インターネットの基本的なプロトコルやネットワーク構成を学ぶ。	
	5	データベース基礎知識	データベース管理システム(DBMS)やSQLの基礎を学ぶ。	
	6	プログラミング言語基礎知識	プログラミング言語の基本的な概念や構文を学ぶ。	
	7	データセキュリティと対策	データのセキュリティとセキュリティ対策を学ぶ。	
	8	情報システムと業務システム	情報システムと業務システムの基礎知識を学ぶ。	
	9	法的規制と倫理	コンピュータ利用の法的な規制と倫理を学ぶ。	
	10	ネットワーク構成要素と技術	ネットワークの構成要素と通信技術を学ぶ。	
	11	ハードウェア構成と動作原理	コンピュータのハードウェア構成と動作原理を学ぶ。	
	12	オペレーティングシステム基礎知識	オペレーティングシステムの基本的な知識を学ぶ。	
	13	データ基礎知識と処理	データの基本的な知識と処理方法を学ぶ。	
	14	期末試験	レポート提出	
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 				

授業計画(シラバス)

科目名	ITパスポート演習Ⅱ		指導担当者名	渡邊 惇基
実務経験	無			
開講時期	通年	対象学科学年	トータルクリエイト・大学科	
授業方法	講義:	演習: ○	実習:	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	ITの知識を総合的に学び、ITパスポートの取得を目標とする。			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	PC、ITパスポート問題集、オリジナルテキスト			
授業外学習の方法	自宅での教材復習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 後 期	15	オリエンテーション	授業の流れ	
	16	ネットワークセキュリティと対策	ネットワークセキュリティとその対策を学ぶ。	
	17	インターネットサービスと技術	インターネットサービスとウェブ技術を学ぶ。	
	18	オフィスソフトウェア基礎知識	オフィスソフトウェアの基本的な知識を学ぶ。	
	19	プログラミング言語構文と概念	プログラミング言語の構文と基本的な概念を学ぶ。	
	20	システム開発基礎知識と手法	システム開発の基本的な知識と手法を学ぶ。	
	21	インターネット利用のリスクと対策	インターネット利用のリスクとセキュリティ対策を学ぶ。	
	22	データベース操作とSQL	データベースの基本的な操作とSQLクエリを学ぶ。	
	23	ネットワークトラブルシューティング	ネットワークのトラブルシューティングと回復手段を学ぶ。	
	24	ハードウェアトラブルシューティング	ネットワークのトラブルシューティングと回復手段を学ぶ。	
	25	オペレーティングシステム設定と管理	オペレーティングシステムの設定と管理を学ぶ。	
	26	プログラム作成とデバッグ手法	プログラムの作成とデバッグの基本的な手法を学ぶ。	
	27	システム運用と保守管理	システムの運用と保守管理に関する基礎知識を学ぶ。	
28	期末試験	レポート提出		
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 				

授業計画(シラバス)

科目名	HTML/CSS演習 I		指導担当者名	株式会社オーダーメイドジャパン
実務経験	有	デザイン業界にてWEB制作実務を担当、5年従事		
開講時期	通年	対象学科学年	トータルクリエイト・大学科	
授業方法	講義:	演習: ○	実習:	実技:
年間時間数	56 時間		週時間数	2 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> • Webの基礎的実習でWebについて習得する事を目標とする。 • HTML、基礎コードの理解と応用の習得 • CSSの知識と技術の習得 			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	Machintosh PC, HTML&CSSとWEBデザイン入門講座			
授業外学習の方法	各授業実施前後の予習と復習の徹底をする			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	WEBサイトの基本	WEBサイトの仕組み、テキストエディターの導入	
	2	HTMLの基本	HTMLとは、HTMLファイルの骨組み	
	3	HTMLの基本	基礎タグ演習	
	4	HTMLの基本	基礎タグ演習	
	5	HTMLの基本	基礎タグ演習	
	6	CSSの基本	CSSとは、CSSファイルの書き方	
	7	CSSの基本	文字の修飾	
	8	CSSの基本	要素、画像の装飾	
	9	CSSの基本	余白、レイアウトの調整	
	10	サイト制作:個人でのサイト構築	フルスクリーンのWEBサイトを制作する	
	11	サイト制作:個人でのサイト構築	2カラムのWEBサイトを制作する	
	12	サイト制作:個人でのサイト構築	タイル型のWEBサイトを制作する	
	13	前期期末試験	プレゼンテーション	
	14	前期振り返り	課題とプレゼンテーションについて講評	
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> • 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない • 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 				

授業計画(シラバス)

科目名	HTML/CSS演習 I		指導担当者名	株式会社オーダーメイドジャパン
実務経験	有	デザイン業界にてWEB制作実務を担当、5年従事		
開講時期	通年	対象学科学年	トータルクリエイト・大学科	
授業方法	講義:	演習: ○	実習:	実技:
年間時間数	56 時間		週時間数	2 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> • Webの基礎的実習でWebについて習得する事を目標とする。 • HTML、基礎コードの理解と応用の習得 • CSSの知識と技術の習得 			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	Machintosh PC, HTML&CSSとWEBデザイン入門講座			
授業外学習の方法	各授業実施前後の予習と復習の徹底をする			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	15	外部メディアの利用	フォーム、地図の設置	
	16	外部メディアの利用	SNSの外部利用	
	17	JavaScriptの基本	JavaScriptとは、JavaScriptの書き方	
	18	JavaScriptの基本	モーダルの表示	
	19	JavaScriptの基本	条件分岐	
	20	自主サイト制作	サイト内容に基づき、ソースコード構築	
	21	自主サイト制作	サイト内容に基づき、ソースコード構築	
	22	自主サイト制作	サイト内容に基づき、ソースコード構築	
	23	自主サイト制作	サイト内容に基づき、ソースコード構築	
	24	自主サイト制作	サイト内容に基づき、ソースコード構築	
	25	自主サイト制作	サイト内容に基づき、ソースコード構築	
	26	後期期末試験	制作発表	
	27	後期の振り返り	プレゼンテーション	
	28	年間の講評	課題とプレゼンテーションについて講評	
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> • 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない • 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 				

授業計画(シラバス)

科目名	HTML/CSS演習Ⅱ		指導担当者名	株式会社オーダーメイドジャパン
実務経験	有	デザイン業界にてWEB制作実務を担当、5年従事		
開講時期	通年	対象学科学年	トータルクリエイト・大学科	
授業方法	講義:	演習: ○	実習:	実技:
年間時間数	56 時間		週時間数	2 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・Webの応用的実習でWebについて習得する事を目標とする。 ・HTML、基礎コードの理解と応用の習得。 ・CSSやJavascript等を用いて、商業サイトの制作を完成させる。 			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	Machintosh PC、HTML&CSSとWEBデザイン入門講座			
授業外学習の方法	各授業実施前後の予習と復習の徹底をする			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	1年次の振り返り	HTML、CSS、JavaScriptについて振り返り	
	2	jQueryの基本	jQueryとは、jQueryの書き方	
	3	jQueryの基本	フォームの操作、アニメーションの付与	
	4	CMSの理解	CMSとは、Wordpressの仕組み	
	5	CMSの理解	Wordpressの使い方	
	6	CMSの理解	Wordpressの使い方	
	7	ECサイトの理解	ECの構築	
	8	CMSを用いて自主サイト制作	サイト内容に基づき、WEBサイト構築	
	9	CMSを用いて自主サイト制作	サイト内容に基づき、WEBサイト構築	
	10	CMSを用いて自主サイト制作	サイト内容に基づき、WEBサイト構築	
	11	CMSを用いて自主サイト制作	サイト内容に基づき、WEBサイト構築	
	12	制作発表	課題提出、プレゼンテーション	
	13	前期期末試験	プレゼンテーション	
	14	前期試験の振り返り	課題とプレゼンテーションについて講評	
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 				

授業計画(シラバス)

科目名	HTML/CSS演習Ⅱ		指導担当者名	株式会社オーダーメイドジャパン
実務経験	有	デザイン業界にてWEB制作実務を担当、5年従事		
開講時期	通年	対象学科学年	トータルクリエイト・大学科	
授業方法	講義:	演習: ○	実習:	実技:
年間時間数	56 時間		週時間数	2 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・Webの応用的実習でWebについて習得する事を目標とする。 ・HTML、基礎コードの理解と応用の習得。 ・CSSやJavascript等を用いて、商業サイトの制作を完成させる。 			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは。A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	Machintosh PC、HTML&CSSとWEBデザイン入門講座			
授業外学習の方法	各授業実施前後の予習と復習の徹底をする			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	15	商業サイト制作:コンセプトシート作成	指定されたカテゴリに基づき、サイト内容を決定	
	16	商業サイト制作:コンセプトシート作成	サイト内容に基づくワイヤーフレームを作成	
	17	商業サイト制作:コンセプトシート作成	サイト内容に基づくワイヤーフレームを作成	
	18	商業サイト制作:素材収集・作成	サイト内容に基づく素材を収集・作成	
	19	商業サイト制作:素材収集・作成	サイト内容に基づく素材を収集・作成	
	20	商業サイト制作:素材収集・作成	サイト内容に基づく素材を収集・作成	
	21	中間審査	プレゼン、添削	
	22	商業サイト制作:サイト構築	サイト内容に基づき、ソースコード構築	
	23	商業サイト制作:サイト構築	サイト内容に基づき、ソースコード構築	
	24	商業サイト制作:サイト構築	サイト内容に基づき、ソースコード構築	
	25	制作発表	制作発表、プレゼンテーション	
	26	制作発表	制作発表、プレゼンテーション	
	27	後期制作課題の振り返り	課題提出、プレゼンテーション	
	28	年間の講評	課題とプレゼンテーションについて講評	
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 				

授業計画(シラバス)

科目名	HTML/CSS演習Ⅲ		指導担当者名	株式会社オーダーメイドジャパン
実務経験	有	デザイン業界にてWEB制作実務を担当、5年従事		
開講時期	通年	対象学科学年	トータルクリエイト・大学科	
授業方法	講義:	演習: ○	実習:	実技:
年間時間数	56 時間		週時間数	2 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> • Webの実践的実習でWebについて習得する事を目標とする。 • HTML、基礎コードの理解と応用の習得。 • CSSやJavascript等を用いて、商業サイトの制作を完成させる。 			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	Machintosh PC、HTML&CSSとWEBデザイン入門講座			
授業外学習の方法	各授業実施前後の予習と復習の徹底をする			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	1年次の振り返り	HTML、CSS、JavaScriptについて振り返り	
	2	jQueryの基本	jQueryとは、jQueryの書き方	
	3	jQueryの基本	フォームの操作、アニメーションの付与	
	4	CMSの理解	CMSとは、Wordpressの仕組み	
	5	CMSの理解	Wordpressの使い方	
	6	CMSの理解	Wordpressの使い方	
	7	ECサイトの理解	ECの構築	
	8	CMSを用いて自主サイト制作	サイト内容に基づき、WEBサイト構築	
	9	CMSを用いて自主サイト制作	サイト内容に基づき、WEBサイト構築	
	10	CMSを用いて自主サイト制作	サイト内容に基づき、WEBサイト構築	
	11	CMSを用いて自主サイト制作	サイト内容に基づき、WEBサイト構築	
	12	制作発表	課題提出、プレゼンテーション	
	13	前期期末試験	プレゼンテーション	
	14	前期試験の振り返り	課題とプレゼンテーションについて講評	
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> • 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない • 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 				

授業計画(シラバス)

科目名	HTML/CSS演習Ⅲ		指導担当者名	株式会社オーダーメイドジャパン
実務経験	有	デザイン業界にてWEB制作実務を担当、5年従事		
開講時期	通年	対象学科学年	トータルクリエイト・大学科	
授業方法	講義:	演習: ○	実習:	実技:
年間時間数	56 時間		週時間数	2 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・Webの実践的実習でWebについて習得する事を目標とする。 ・HTML、基礎コードの理解と応用の習得。 ・CSSやJavascript等を用いて、商業サイトの制作を完成させる。 			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは。A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	Machintosh PC、HTML&CSSとWEBデザイン入門講座			
授業外学習の方法	各授業実施前後の予習と復習の徹底をする			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	15	商業サイト制作:コンセプトシート作成	指定されたカテゴリに基づき、サイト内容を決定	
	16	商業サイト制作:コンセプトシート作成	サイト内容に基づくワイヤーフレームを作成	
	17	商業サイト制作:コンセプトシート作成	サイト内容に基づくワイヤーフレームを作成	
	18	商業サイト制作:素材収集・作成	サイト内容に基づく素材を収集・作成	
	19	商業サイト制作:素材収集・作成	サイト内容に基づく素材を収集・作成	
	20	商業サイト制作:素材収集・作成	サイト内容に基づく素材を収集・作成	
	21	中間審査	プレゼン、添削	
	22	商業サイト制作:サイト構築	サイト内容に基づき、ソースコード構築	
	23	商業サイト制作:サイト構築	サイト内容に基づき、ソースコード構築	
	24	商業サイト制作:サイト構築	サイト内容に基づき、ソースコード構築	
	25	制作発表	制作発表、プレゼンテーション	
	26	制作発表	制作発表、プレゼンテーション	
	27	後期制作課題の振り返り	課題提出、プレゼンテーション	
	28	年間の講評	課題とプレゼンテーションについて講評	
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 				

授業計画(シラバス)

科目名	WEBデザイン実習 I		指導担当者名	株式会社オーダーメイドジャパン
実務経験	有	WEB制作会社との契約により、実務経験が5年以上の社員が担当		
開講時期	通年	対象学科学年	トータルクリエイト・大学科	
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:
年間時間数	56 時間		週時間数	2 時間
学習到達目標	<p>Webデザインの基礎的実習でWebデザインについて習得する事を目標とする。 近年メインとされるWEBレイアウトサイトの構造理解 CSSやJavascript等を用いて、商業サイトの制作を完成させる。</p>			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	Machintosh PC、HTML&CSSとWEBデザイン入門講座			
授業外学習の方法	各授業実施前後の予習と復習の徹底をする			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	サーバー設定の理解	サーバーの仕組み	
	2	サーバー設定の理解	ドメインの仕組み、Wordpressのインストール方法	
	3	サーバー設定の理解	FTP接続、データベースの理解	
	4	CMSの理解	Wordpressのテーマ選定	
	5	CMSの理解	Wordpressのテーマ構造	
	6	ECサイトの理解	ECの構築	
	7	CMSを用いて自主サイト制作	サイト内容に基づき、WEBサイト構築	
	8	CMSを用いて自主サイト制作	サイト内容に基づき、WEBサイト構築	
	9	CMSを用いて自主サイト制作	サイト内容に基づき、WEBサイト構築	
	10	CMSを用いて自主サイト制作	サイト内容に基づき、WEBサイト構築	
	11	サーバー設定の理解	環境間の移行設定	
	12	制作発表	課題提出、プレゼンテーション	
	13	前期期末試験	プレゼンテーション	
	14	前期試験の振り返り	課題とプレゼンテーションについて講評	
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 				

授業計画(シラバス)

科目名	WEBデザイン実習 I		指導担当者名	株式会社オーダーメイドジャパン
実務経験	有	WEB制作会社との契約により、実務経験が5年以上の社員が担当		
開講時期	通年	対象学科学年	トータルクリエイト・大学科	
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:
年間時間数	56 時間		週時間数	2 時間
学習到達目標	Webデザインの基礎的実習でWebデザインについて習得する事を目標とする。 近年メインとされるWEBレイアウトサイトの構造理解 CSSやJavascript等を用いて、商業サイトの制作を完成させる。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	Machintosh PC、HTML&CSSとWEBデザイン入門講座			
授業外学習の方法	各授業実施前後の予習と復習の徹底をする			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	15	商業サイト制作:コンセプトシート作成	指定されたカテゴリに基づき、サイト内容を決定	
	16	商業サイト制作:コンセプトシート作成	サイト内容に基づくワイヤーフレームを作成	
	17	商業サイト制作:コンセプトシート作成	サイト内容に基づくワイヤーフレームを作成	
	18	商業サイト制作:素材収集・作成	サイト内容に基づく素材を収集・作成	
	19	商業サイト制作:素材収集・作成	サイト内容に基づく素材を収集・作成	
	20	商業サイト制作:素材収集・作成	サイト内容に基づく素材を収集・作成	
	21	商業サイト制作:サイト構築	サイト内容に基づき、ソースコード構築	
	22	商業サイト制作:サイト構築	サイト内容に基づき、ソースコード構築	
	23	商業サイト制作:サイト構築	サイト内容に基づき、ソースコード構築	
	24	商業サイト制作:サイト構築	サイト内容に基づき、ソースコード構築	
	25	制作発表	制作発表、プレゼンテーション	
	26	制作発表	制作発表、プレゼンテーション	
	27	後期制作課題の振り返り	プレゼンテーション	
	28	年間の講評	課題とプレゼンテーションについて講評	
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 				

授業計画(シラバス)

科目名	WEBデザイン実習Ⅱ		指導担当者名	株式会社オーダーメイドジャパン
実務経験	有	WEB制作会社との契約により、実務経験が5年以上の社員が担当		
開講時期	通年	対象学科学年	トータルクリエイト・大学科	
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:
年間時間数	56 時間		週時間数	2 時間
学習到達目標	<p>Webデザインの応用的実習でWebデザインについて習得する事を目標とする。 近年メインとされるWEBレイアウトサイトの構造理解 CSSやJavascript等を用いて、商業サイトの制作を完成させる。</p>			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	Machintosh PC、HTML&CSSとWEBデザイン入門講座			
授業外学習の方法	各授業実施前後の予習と復習の徹底をする			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 前期	1	サーバー設定の理解	サーバーの仕組み	
	2	サーバー設定の理解	ドメインの仕組み、Wordpressのインストール方法	
	3	サーバー設定の理解	FTP接続、データベースの理解	
	4	CMSの理解	Wordpressのテーマ選定	
	5	CMSの理解	Wordpressのテーマ構造	
	6	ECサイトの理解	ECの構築	
	7	CMSを用いて自主サイト制作	サイト内容に基づき、WEBサイト構築	
	8	CMSを用いて自主サイト制作	サイト内容に基づき、WEBサイト構築	
	9	CMSを用いて自主サイト制作	サイト内容に基づき、WEBサイト構築	
	10	CMSを用いて自主サイト制作	サイト内容に基づき、WEBサイト構築	
	11	サーバー設定の理解	環境間の移行設定	
	12	制作発表	課題提出、プレゼンテーション	
	13	前期期末試験	プレゼンテーション	
	14	前期試験の振り返り	課題とプレゼンテーションについて講評	
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 				

授業計画(シラバス)

科目名	WEBデザイン実習Ⅱ		指導担当者名	株式会社オーダーメイドジャパン
実務経験	有	WEB制作会社との契約により、実務経験が5年以上の社員が担当		
開講時期	通年	対象学科学年	トータルクリエイト・大学科	
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:
年間時間数	56 時間		週時間数	2 時間
学習到達目標	Webデザインの応用的実習でWebデザインについて習得する事を目標とする。 近年メインとされるWEBレイアウトサイトの構造理解 CSSやJavascript等を用いて、商業サイトの制作を完成させる。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	Machintosh PC、HTML&CSSとWEBデザイン入門講座			
授業外学習の方法	各授業実施前後の予習と復習の徹底をする			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	15	商業サイト制作:コンセプトシート作成	指定されたカテゴリに基づき、サイト内容を決定	
	16	商業サイト制作:コンセプトシート作成	サイト内容に基づくワイヤーフレームを作成	
	17	商業サイト制作:コンセプトシート作成	サイト内容に基づくワイヤーフレームを作成	
	18	商業サイト制作:素材収集・作成	サイト内容に基づく素材を収集・作成	
	19	商業サイト制作:素材収集・作成	サイト内容に基づく素材を収集・作成	
	20	商業サイト制作:素材収集・作成	サイト内容に基づく素材を収集・作成	
	21	商業サイト制作:サイト構築	サイト内容に基づき、ソースコード構築	
	22	商業サイト制作:サイト構築	サイト内容に基づき、ソースコード構築	
	23	商業サイト制作:サイト構築	サイト内容に基づき、ソースコード構築	
	24	商業サイト制作:サイト構築	サイト内容に基づき、ソースコード構築	
	25	制作発表	制作発表、プレゼンテーション	
	26	制作発表	制作発表、プレゼンテーション	
	27	後期制作課題の振り返り	プレゼンテーション	
	28	年間の講評	課題とプレゼンテーションについて講評	
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 				

授業計画(シラバス)

科目名	WEBデザイン実習Ⅲ		指導担当者名	株式会社オーダーメイドジャパン
実務経験	有	WEB制作会社との契約により、実務経験が5年以上の社員が担当		
開講時期	通年	対象学科学年	トータルクリエイト・大学科	
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:
年間時間数	56 時間		週時間数	2 時間
学習到達目標	<p>Webデザインの実践的実習でWebデザインについて習得する事を目標とする。 近年メインとされるWEBレイアウトサイトの構造理解 CSSやJavascript等を用いて、商業サイトの制作を完成させる。</p>			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	Machintosh PC、HTML&CSSとWEBデザイン入門講座			
授業外学習の方法	各授業実施前後の予習と復習の徹底をする			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 前期	1	サーバー設定の理解	サーバーの仕組み	
	2	サーバー設定の理解	ドメインの仕組み、Wordpressのインストール方法	
	3	サーバー設定の理解	FTP接続、データベースの理解	
	4	CMSの理解	Wordpressのテーマ選定	
	5	CMSの理解	Wordpressのテーマ構造	
	6	ECサイトの理解	ECの構築	
	7	CMSを用いて自主サイト制作	サイト内容に基づき、WEBサイト構築	
	8	CMSを用いて自主サイト制作	サイト内容に基づき、WEBサイト構築	
	9	CMSを用いて自主サイト制作	サイト内容に基づき、WEBサイト構築	
	10	CMSを用いて自主サイト制作	サイト内容に基づき、WEBサイト構築	
	11	サーバー設定の理解	環境間の移行設定	
	12	制作発表	課題提出、プレゼンテーション	
	13	前期期末試験	プレゼンテーション	
	14	前期試験の振り返り	課題とプレゼンテーションについて講評	
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 				

授業計画(シラバス)

科目名	WEBデザイン実習Ⅲ		指導担当者名	株式会社オーダーメイドジャパン
実務経験	有	WEB制作会社との契約により、実務経験が5年以上の社員が担当		
開講時期	通年	対象学科学年	トータルクリエイト・大学科	
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:
年間時間数	56 時間		週時間数	2 時間
学習到達目標	Webデザインの実践的実習でWebデザインについて習得する事を目標とする。 近年メインとされるWEBレイアウトサイトの構造理解 CSSやJavascript等を用いて、商業サイトの制作を完成させる。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	Machintosh PC、HTML&CSSとWEBデザイン入門講座			
授業外学習の方法	各授業実施前後の予習と復習の徹底をする			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	15	商業サイト制作:コンセプトシート作成	指定されたカテゴリに基づき、サイト内容を決定	
	16	商業サイト制作:コンセプトシート作成	サイト内容に基づくワイヤーフレームを作成	
	17	商業サイト制作:コンセプトシート作成	サイト内容に基づくワイヤーフレームを作成	
	18	商業サイト制作:素材収集・作成	サイト内容に基づく素材を収集・作成	
	19	商業サイト制作:素材収集・作成	サイト内容に基づく素材を収集・作成	
	20	商業サイト制作:素材収集・作成	サイト内容に基づく素材を収集・作成	
	21	商業サイト制作:サイト構築	サイト内容に基づき、ソースコード構築	
	22	商業サイト制作:サイト構築	サイト内容に基づき、ソースコード構築	
	23	商業サイト制作:サイト構築	サイト内容に基づき、ソースコード構築	
	24	商業サイト制作:サイト構築	サイト内容に基づき、ソースコード構築	
	25	制作発表	制作発表、プレゼンテーション	
	26	制作発表	制作発表、プレゼンテーション	
	27	後期制作課題の振り返り	プレゼンテーション	
	28	年間の講評	課題とプレゼンテーションについて講評	
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 				

授業計画(シラバス)

科目名	映像制作概論		指導担当者名	青木 龍太郎
実務経験	有	カメラマン、動画撮影、動画編集者として5年間勤務し、現在フリーで活動している		
開講時期	通年	対象学科学年	トータルクリエイト・大学科	
授業方法	講義:	演習: ○	実習:	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	映像制作における基礎知識、用語を理解し適切に使えるようになることを目的とする。			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	動画映像制作ハンドブック			
授業外学習の方法	授業内で提示された課題の自宅学習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 前期	1	プリプロ-映像制作のながれ	映像制作の流れをチャートに沿って学習する	
	2	プリプロ-企画、オリエンテーション	映像制作における企画、オリエンテーションとは何かを実際の収録までの作業詳細に沿って理解する。	
	3	プリプロ-シナリオ表現、コンテ	映像制作におけるシナリオ表現の考え方を学び、コンテに落とし込む	
	4	撮影-レンズの特性	レンズの特性についての知識を学ぶ	
	5	撮影-画面サイズ、カメラワーク	画面サイズと呼称、カメラワークの用語について学ぶ	
	6	撮影-撮影機材、撮影の実際	撮影機材の種類、用途と役割、実際の撮影の流れを学ぶ	
	7	照明-照明の役割、色彩表現~照度と色彩	照明の役割、色彩表現の知識を学ぶ	
	8	照明-ライト・ポジション、照明機材	ライトポジション、照明機材の名称・用途を学ぶ	
	9	照明-人物照明、その他	人物照明における3灯照明の基本と応用について、その他の照明についての知識を学ぶ	
	10	素材制作-コンピューター・グラフィックス	映像制作における素材、データ形式に関する知識を学ぶ	
	11	素材制作-2DCG・3DCG、画像合成	2DCG、3DCG、画像合成に関する用語とその意味を学ぶ	
	12	素材制作-音素材、音素材制作	映像制作における音素材に関する知識を学ぶ	
	13	前期期末試験	プリプロ~素材制作までの知識試験	
	14	前期振り返り	前期の振り返り	
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 				

授業計画(シラバス)

科目名	映像制作概論		指導担当者名	青木 龍太郎
実務経験	有	カメラマン、動画撮影、動画編集者として5年間勤務し、現在フリーで活動している		
開講時期	通年	対象学科学年	トータルクリエイト・大 学科	
授業方法	講義:	演習: ○	実習:	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	映像制作における基礎知識、用語を理解し適切に使えるようになることを目的とする。			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	動画映像制作ハンドブック			
授業外学習の方法	授業内で提示された課題の自宅学習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 後 期	15	録音-録音の基礎、音声の物理	録音の基礎知識、音源の三要素について、音声の物理についての知識を学ぶ	
	16	録音-録音機材	録音機材の名称・用途について学ぶ	
	17	録音-スタジオ録音・ロケでの録音	スタジオ録音の実際とロケでの録音の基本的流れを学ぶ	
	18	編集-編集とは何か、役割、実際	映像制作における編集とは何か、編集に関する用語やその役割と実際の流れを学ぶ	
	19	編集-編集の技法、イマジナリーライン	編集の技法の共通理解知識を学ぶ、イマジナリーラインと180度ルールについて	
	20	編集-音によるカッティング・テロップ	音によるカッティングの知識、テロップデザインについて	
	21	ポストプロ-ポストプロとは・インターレースとフレームレート	ポストプロダクションについての知識を学ぶ	
	22	ポストプロ-モニタリング、カラーコレクション	モニタリング、カラーコレクションの知識を学ぶ	
	23	ポストプロ-MA、納品	MultiAudio、納品の流れを学ぶ	
	24	関連知識①	映像制作の関連知識、業界動向などを学ぶ①	
	25	関連知識②	映像制作の関連知識、業界動向などを学ぶ②	
	26	関連知識③	映像制作の関連知識、業界動向などを学ぶ③	
	27	後期期末試験	録音～関連知識までの知識試験	
28	後期振り返り	後期の振り返り		
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 				

授業計画(シラバス)

科目名	音響学概論 I		指導担当者名	薄 崇雄
実務経験	有	コンサート業務・音響現場に50年以上従事、また舞台機構調整技能士検定委員に5年以上従事		
開講時期	通年	対象学科学年	トータルクリエイト・大学科	
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：
年間時間数	28 時間		週時間数	1 時間
学習到達目標	<p>(前期) 音響の仕事を理解する。プロが使う音に慣れるオーケストラ等の大編成の音に親しむ人間の聴覚を理解する 3級舞台機構調整学科受験対策、演習</p> <p>(後期) 人間の聴覚と音響機器から出る音の融合を図る</p>			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	テキスト:舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)			
授業外学習の方法	音に注意を払った音楽、映画鑑賞、クラシックコンサート等生音のライブ鑑賞			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	オリエンテーション	どうしてこの学科を選んだかの質問	
	2	音響技術者の違い	レジュメ	
	3	検定試験の概要	舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)	
	4	バイノーラルとステレオフォニック	楽器音再生	
	5	オーケストラ楽器のヒアリング	楽器音再生	
	6	学科試験問題演習、ヒアリング演習	舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)、楽器音再生	
	7	学科試験問題演習、ヒアリング演習	"	
	8	学科試験問題演習、ヒアリング演習	"	
	9	学科試験問題演習、ヒアリング演習	"	
	10	前期試験		
	11	3級受験直前学科演習	舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)	
	12	3級受験判断等試験(ヒアリング) 直前演習	楽器音再生、舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)	
	13	本試験		
	14	試験結果答え合わせ		
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 				

授業計画(シラバス)

科目名	音響学概論 I		指導担当者名	薄 崇雄
実務経験	有	コンサート業務・音響現場に50年以上従事、また舞台機構調整技能士検定委員に5年以上従事		
開講時期	通年	対象学科学年	トータルクリエイト・大学科	
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：
年間時間数	28 時間		週時間数	1 時間
学習到達目標	<p>(前期) 音響の仕事を理解する。プロが使う音に慣れるオーケストラ等の大編成の音に親しむ人間の聴覚を理解する 3級舞台機構調整学科受験対策、演習</p> <p>(後期) 人間の聴覚と音響機器から出る音の融合を図る</p>			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A, B, Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	テキスト: 舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)			
授業外学習の方法	音に注意を払った音楽、映画鑑賞、クラシックコンサート等生音のライブ鑑賞			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	15	ミキシングエンジニアの役割	レジュメ	
	16	安全について、非常放送・火災警報器	事務室火災警報器、非常放送見学、舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)	
	17	音量、音質について	舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)、音及び音楽再生	
	18	楽器の発音構造	舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)、音及び音楽再生	
	19	人間の声の特性	舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)、音及び音楽再生	
	20	ホールの構造	舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)、音及び音楽再生	
	21	EQについて	舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)、音及び音楽再生	
	22	エフェクターについて(リバーブ)	舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)、音及び音楽再生	
	23	エフェクターについて(コンプレッサー)	舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)、音及び音楽再生	
	24	後期試験		
	25	ステレオ録音	舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)	
	26	圧縮～リニア～ハイレゾ と音響心理	舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)、音及び音楽再生	
	27	期末試験		
	28	テスト答え合わせ		
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 				

授業計画(シラバス)

科目名	音響実習 I		指導担当者名	薄 崇雄
実務経験	有	コンサート業務・音響現場に50年以上従事、また舞台機構調整技能士検定委員に5年以上従事		
開講時期	通年	対象学科学年	トータルクリエイト・大学科	
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	プロフェッショナルな音、音響機材に慣れる 舞台機構調整 製作等作業試験受験準備 舞台機構調整 判断等試験受験準備 舞台機構調整 製作等作業試験受験 舞台機構調整 判断等試験受験			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	テキスト: 舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)、検定用音響機材、楽器音等の音源			
授業外学習の方法	マイクケーブル、マイクスタンド等の音響機材の扱いに慣れる。オーケストラ等大編成のTV音楽番組を観賞する。			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 前期	1	プロの音に慣れる	モニタースピーカー、CD	
	2	ミキシングコンソールの構造	分解用アナログ調整卓	
	3	ケーブル・コネクタ、スタンドの種類	該当ケーブル、コネクタ	
	4	ミキサーの操作	アナログ、デジタル調整卓	
	5	製作等作業試験の実習 (問題読み合わせ)	舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)	
	6	製作等作業試験の実習	マイク、マイクケーブル、スタンド、PAシステム	
	7	製作等作業試験の実習	マイク、マイクケーブル、スタンド、PAシステム	
	8	判断等試験、製作等作業試験の実習	モニタースピーカー、CD	
	9	判断等試験、製作等作業試験の実習	モニタースピーカー、CD	
	10	ヒアリング試験	モニタースピーカー、CD	
	11	ヒアリングのフィードバック		
	12	ヒアリングのフィードバック		
	13	本試験	モニタースピーカー、CD、マイク、マイクケーブル、スタンド、PAシステム	
	14	前期の振り返り		
履修上の留意点				
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	音響実習 I		指導担当者名	薄 崇雄
実務経験	有	コンサート業務・音響現場に50年以上従事、また舞台機構調整技能士検定委員に5年以上従事		
開講時期	通年	対象学科学年	トータルクリエイト・大学科	
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	プロフェッショナルな音、音響機材に慣れる 舞台機構調整 製作等作業試験受験準備 舞台機構調整 判断等試験受験準備 舞台機構調整 製作等作業試験受験 舞台機構調整 判断等試験受験			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	テキスト:舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)、検定用音響機材、楽器音等の音源			
授業外学習の方法	マイクケーブル、マイクスタンド等の音響機材の扱いに慣れる。オーケストラ等大編成のTV音楽番組を観賞する。			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	15	編集ソフトの操作、構成台本製作	PC	
	16	台本製作、素材加工	PC	
	17	ナレーション、SE、音楽のミキシング(実機)	台本、再生機材一式	
	18	ナレーション、SE、音楽のミキシング(実機)	台本、再生機材一式	
	19	ナレーション、SE、音楽のミキシング(実機)	台本、再生機材一式	
	20	編集ソフトへの音源入れ込み	台本、PC、再生機材一式	
	21	ナレーション、SE、音楽のミキシング(PC)	台本、PC、再生機材一式	
	22	PCソフト編集(個人)	PC、再生機材一式	
	23	ソフト編集物のチェック1	PC、再生機材一式	
	24	ソフト編集物のチェック2	PCPCソフト編集、マスタリング、CD製作	
	25	PCソフト編集、マスタリング、CD製作1	提出の企画にあわせての音源制作	
	26	PCソフト編集、マスタリング、CD製作2	提出の企画にあわせての音源制作	
	27	期末試験	CD再生機材一式	
	28	振り返り	評価シート提出	
履修上の留意点				
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	修了制作 I	指導担当者名	担任
実務経験	無		
開講時期	後期	対象学科学年	全学科卒業年次生
授業方法	講義:	演習:	実習: ○ 実技:
年間時間数	180 時間	週時間数	180 時間
学習到達目標	・卒業生: 2, 3年間の集大成として学んだこと活かしデジタルコンテンツを制作し、プレゼンテーションをする。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A, B, Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	デジタルコンテンツ制作に必要な物を各自用意。		
授業外学習の方法	制作にあたり、事前の企画・計画をそれぞれ複数の先生方と行い、チェックをもらう事		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	15	作品制作①	事前に準備していた企画・計画に沿ってそれぞれ制作にあたる
	16	作品制作②	個別添削を行いながら制作を進めていく
	17	作品制作③	中間発表
	18	学科内プレゼンテーション	学科内でプレゼンテーションを実施
	19	発表を受けての修正と展示準備	オンライン展示およびオンサイト展示を実施
	20	卒業・修了制作展	展示終了後は、アーカイブ化し、デジタル保存をする
	21		
	22		
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
28			
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	修了制作Ⅱ	指導担当者名	担任
実務経験	無		
開講時期	後期	対象学科学年	全学科卒業年次生
授業方法	講義:	演習:	実習: ○ 実技:
年間時間数	180 時間	週時間数	180 時間
学習到達目標	・卒業生: 2, 3年間の集大成として学んだこと活かしデジタルコンテンツを制作し、プレゼンテーションをする。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A, B, Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	デジタルコンテンツ制作に必要な物を各自用意。		
授業外学習の方法	制作にあたり、事前の企画・計画をそれぞれ複数の先生方と行い、チェックをもらう事		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	15	作品制作①	事前に準備していた企画・計画に沿ってそれぞれ制作にあたる
	16	作品制作②	個別添削を行いながら制作を進めていく
	17	作品制作③	中間発表
	18	学科内プレゼンテーション	学科内でプレゼンテーションを実施
	19	発表を受けての修正と展示準備	オンライン展示およびオンサイト展示を実施
	20	卒業・修了制作展	展示終了後は、アーカイブ化し、デジタル保存をする
	21		
	22		
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
28			
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	修了制作Ⅲ	指導担当者名	担任
実務経験	無		
開講時期	後期	対象学科学年	全学科卒業年次生
授業方法	講義:	演習:	実習: ○ 実技:
年間時間数	180 時間	週時間数	180 時間
学習到達目標	・卒業生: 2, 3年間の集大成として学んだこと活かしデジタルコンテンツを制作し、プレゼンテーションをする。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A, B, Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	デジタルコンテンツ制作に必要な物を各自用意。		
授業外学習の方法	制作にあたり、事前の企画・計画をそれぞれ複数の先生方と行い、チェックをもらう事		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	15	作品制作①	事前に準備していた企画・計画に沿ってそれぞれ制作にあたる
	16	作品制作②	個別添削を行いながら制作を進めていく
	17	作品制作③	中間発表
	18	学科内プレゼンテーション	学科内でプレゼンテーションを実施
	19	発表を受けての修正と展示準備	オンライン展示およびオンサイト展示を実施
	20	卒業・修了制作展	展示終了後は、アーカイブ化し、デジタル保存をする
	21		
	22		
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
28			
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	卒業制作	指導担当者名	担任
実務経験	無		
開講時期	後期	対象学科学年	全学科卒業年次生
授業方法	講義:	演習:	実習: ○ 実技:
年間時間数	180 時間	週時間数	180 時間
学習到達目標	・卒業生: 2, 3年間の集大成として学んだこと活かしデジタルコンテンツを制作し、プレゼンテーションをする。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A, B, Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	デジタルコンテンツ制作に必要な物を各自用意。		
授業外学習の方法	制作にあたり、事前の企画・計画をそれぞれ複数の先生方と行い、チェックをもらう事		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	15	作品制作①	事前に準備していた企画・計画に沿ってそれぞれ制作にあたる
	16	作品制作②	個別添削を行いながら制作を進めていく
	17	作品制作③	中間発表
	18	学科内プレゼンテーション	学科内でプレゼンテーションを実施
	19	発表を受けての修正と展示準備	オンライン展示およびオンサイト展示を実施
	20	卒業・修了制作展	展示終了後は、アーカイブ化し、デジタル保存をする
	21		
	22		
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
28			
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			